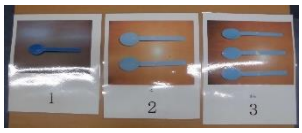
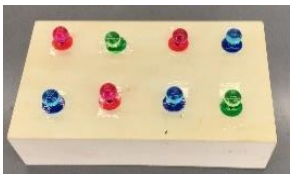
# 教材・教具

本校では，“一人一人が主人公”を合い言葉に，日々研究・研修を行っています。
個に応じた指導を実践するため，教員が手作りした教材・教具をどうぞご覧下さい。

## 算数・数学

| 教材名 | ねらい | 写真 |
|---|---|---|
| 数概念を身に付けるカード | 数の基本である１，２，３について数字（表記）とその数概念を身に付ける。 |  |
| 色や形で分けてみよう | 図形の基本である「△，○，□」や色の違いに気付くことができる。 | |
| 色を分けてさしてみよう | 色の違いや３色の色がわかる。 |  |

# 数概念を身に付けるカード　その２

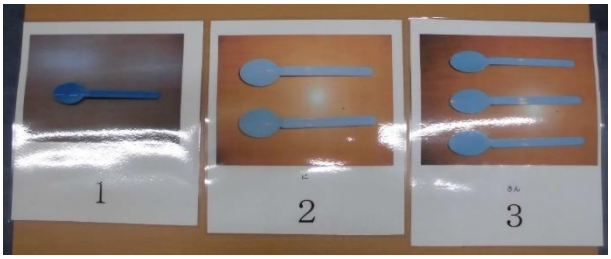
## 【ねらい】

・数の基本である１，２，３について数字（表記）とその数概念を身に付ける。

## 【特徴，使い方等】

・数字が示す数概念について，視覚的に理解し，捉えられるようにしたこと。

・具体物（ここではスプーン）をカードの上に置いて数を確かめる，持って来るという操作を通して，視覚と活動の両面からアプローチすることで，数概念を生活の中で生きてはたらく力として身に付けられるようにすることをねらった。

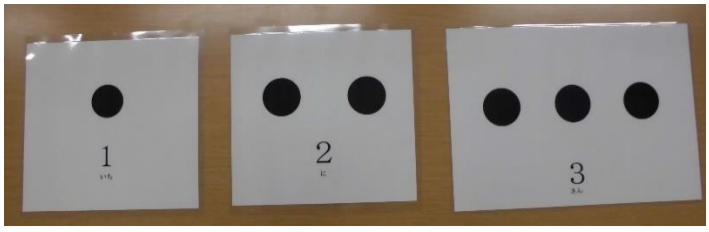



○上記のような数字と具体物（ここではスプーン）の個数を示す写真とを一緒にしたカードを用意する。

○カードを生徒に提示し，少し離れたところにスプーンを置いておき，カードに示す数の分だけ持って来るよう言葉かけをする。

○生徒がスプーンを持って来たら，カードの写真の上に置き，過不足なく持って来れたのかどうかを確認する。間違えたときは，多く持って来てしまったのか，足りないのかを，数字とそれが示す正しい個数を確かめる。(このため，写真の具体物の大きさは，ほぼ実物大であることが望ましい。)

○上記のカードを提示し，教師が提示した数の分だけ正しく持って来れるようになったら，写真をドットマークに替えて行う。




○上記ドットマークでも教師が提示した数の分だけ，正しく持って来れるようになったら，ドットマークがない数字のみのカードを提示して行う。間違えたときは，上記ドットマークでのカードにもどって確認する。

○生活の中の様々な場面において，数字カードのみを提示し，数字が示す数の分だけ物を持って来る練習を行い，定着を図る。

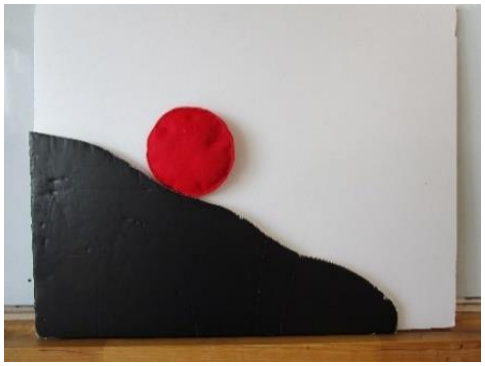
【制作者】　　樋田　成治

# 色や形で分けてみよう

【ねらい】

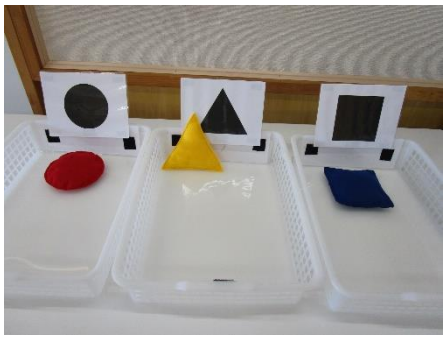
・図形の基本である「△，○，□」や色の違いに気付くことができる。

【特徴，使い方等】



①

②



③

・赤，青，黄，3 色のフェルトで作った丸，三角，四角の形を使って「色や形の分類」をする教材である。

・はじめに，①「なーにかな なーにかな♫ コロコロコロコロ落ちてきた。こーれは何かな？」と歌のに合わせて坂道ボードに●▲■を 1 つずつ転がして問題を出す。

・「これは何色かな？」②「これは何の形かな？」③と子どもたちに質問し，ボードに貼ったりカゴにいれたりして色や形に分類する。

・表示に形を重ね確認しながら分類できるよう，表示カードの図形とフェルトの形の大きさを同じにした。また，フェルトの中に磁石をつけたことで，いろいろな図形遊びにも使用できるようにした。

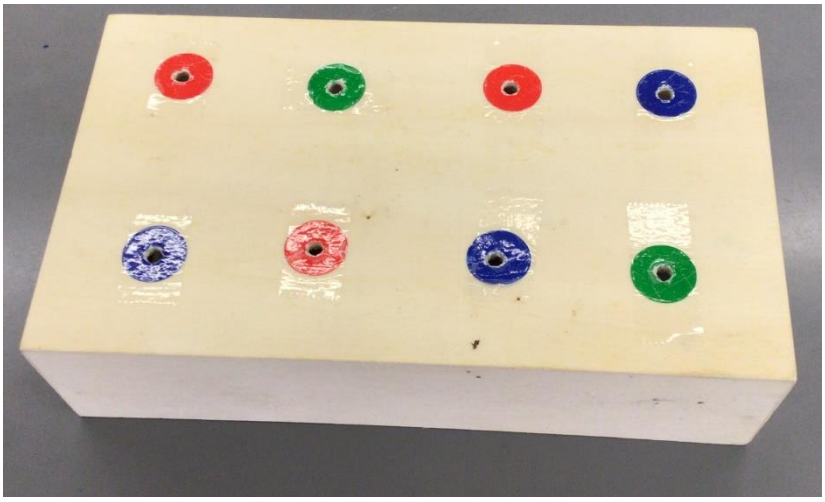
【制作者】　　金澤　薫

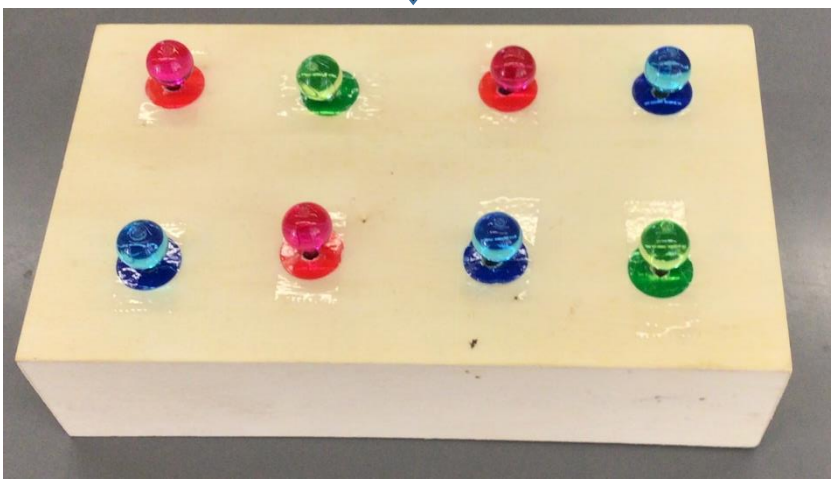
# 正しい色にさしてみよう

【ねらい】

・**色の違いや３色の色がわかる。**

【特徴，使い方等】





・100 均で手に入るもので作成した。
・色に注目できるように、シンプルな作りになっている。
・赤、青、緑、三色の目印とペグを使用して、色の違いや三色の色が分かり、指の巧緻性を高める教材。
・「これはどこですか。」と児童生徒に質問しながら、一つずつペグを渡していく。
・小さな穴にペグをいれるので、目と手の協応動作の学習にもなる。

【制作者】　　増子　敦己